岩手教区報

第368号
立教186年8月1日
天理教岩手教務支庁
盛岡市馬場町3-40
TEL 019-622-7962
FAX 019-623-9597

夏の勉強会に思う

道の教職員の集い代表世話人　門間道明

岩手教区道の教職員の集いは、昭和51年4月設立準備委員会を経て、同年7月4日の組織結成から始まります。今回の第44回「夏の勉強会」は、昭和55年8月10日から12日にかけて、「成人塾」との名称で行事が始まりました。当時の印刷物は、鉄筆によるガリ版あるいはホワイト原紙による輪転機印刷でした。コピー機はまだ高額でなかなか購入出来ない時代で、まして携帯電話やスマートフォンは普及していませんでした。

今年は昭和98年にあたる年です。平成21年の第30回より、「成人塾」から「夏の勉強会」へと名称を変え行事が進められてきました。「夏の勉強会」は今回で第44回になりますが、時代も子供達の環境も、この43年の間に大きく変化しています。

道の教職員の集いは、道の後継者育成と共に、親神様が望まれる陽気ぐらし世界実現を目指して働き、また、教育に携わってきた道の信仰者の会であり、これまで「夏の勉強会」を会の最重要行事として取り組んできました。

昔「読み書きそろばん」といわれ、教科書中心に勉学していました。時代の流れにより携帯電話、スマートフォン、AIが出現し、今の子供達は、これからの時代を生きていく上で不可欠な力を適切な形で養えるよう、生成AIや、全ての教科書に、デジタル教材へつながるQRコードが載る事になりつつある教材を使用するようになってきています。高度なプログラミング学習の出現もあります。今、教育の一つの転換期にあるのではないかと思います。

今後、視力、姿勢の問題など様々な心配な事がありますが、従来の「夏の勉強会」では、期間中は携帯電話、スマートフォンを預って使用させませんでした。今年からはそのような事はせず、今まで以上に他人の気持ちを考える事に重きを置き、人情の機微を知る事の大切さを知ってもらい、気持ちよく共同生活をおくるためにもお互いのことをよく知って、他人の気持ちを考えながらふるまうということが極めて大切であること、その理解や交流に努めていきたいと思います。

一人でも多くの小学生、中学生の参加をお待ちしています。詳細については、チラシを参照して下さい。

追伸　私達の年代はしらけ世代といわれ、今の子供達はα（アルファ）世代といわれているそうです。世代を越えて、一手一つに共に歩ませて頂きたいものです。

教祖140年祭

青年会

「岩手っ子だヨ！全員集合」開催報告

教区青年会は、6月25日（日）、親里において「岩手っ子だヨ！全員集合」を開催し、親里や近隣在住の岩手に繋がる若者ら21人が参加した。

午前10時半、南礼拝場前に集合し、はじめに高橋邦之主事の挨拶があり、続いて全員が自己紹介した後、記念撮影。その後、記念建物を見学し、毎週日曜に勤められているお願いづとめをつとめ、天理市内で昼食をとった。

午後2時からは、岩手教区「全教会おぢばがえり」の廻廊拭きひのきしんに有志数人が合流した。

学生担当委員会

「学生層育成者講習会」報告

中山祥吉　講師

教区学生担当委員会は、7月1日（土）、中山祥吉本部学生担当委員会副委員長（あきよし分教会長）を講師に、「学生層育成者講習会」を開催し、19人が参加した。

中山講師は、若年層に接する上でまず大切な3つポイントとして「信仰の喜びを伝えること」、「おたすけに巻き込むこと」、「第三者の声を伝える」をあげ、「様々な悩みや経験を通して成長していく若者に自らの信仰の喜びを伝え、身上や事情のおたすけの際一緒にお願いをして貰い、そして、親や周りの人たちがどのように道を通っているかを学生に伝えて頂きたい」と話され、また前真柱様から「丹精とは、導くや育てるということではなく、相手のペースに合わせて共に歩むことである」と教えて頂いたことにもふれられた。

その後、講師と担当者との懇談会があり、忌憚（きたん）のない意見交換が交わされた。

第44回「夏の勉強会」
日時　8月11日（金）～12日（土）
対象　小学生、中学生

教区福祉セミナー
日時　8月29日（火）午前10時
内容　里親研修会、認知症サポーター養成講座

「陽気ぐらし講座」開催報告（7月分）

奥州　9日（日）金ケ崎町中央生涯教育センター　32人〔講師　白熊繁一先生〕
奥州　9日（日）岩栄原分教会　29人〔講師　白熊繁一先生〕

行事予定――【8月分】

1日　主事会（9時）
〃　役員会（10時）
11日　夏の勉強会（9時～12日）
12日　学生担当委員会例会 zoom（19時30分）
19日　青年会例会（19時）
29日　福祉セミナー（10時）
〃　少年会例会（12時）
31日　婦人会例会（10時）

「全教会おぢばがえり」実施報告

岩手教区は、６月24日から27日にかけて、「全教会おぢばがえり」を実施、現地参加者を含む125人が参加した。

教区主事会では、教祖140年祭三年千日を迎えるにあたり、これまでコロナ禍等の影響により、おぢばがえりが困難な状況にあった教会長やようぼく、信者が共におぢばに帰り、喜び勇んで頂くことで、教区内の全教会が心を揃えて一手一つに年祭活動を進めたい、との思いから、年祭活動１年目にバス団参を実施する方針となり、その後プロジェクト会議を重ねて企画立案され、この度の団参実現に至った。今回は参加者の便宜を図り、内陸と沿岸に大型バスを配車した。

24日午後、内陸ルートのバスは教務支庁から、沿岸ルートのバスは洋野町中野から、それぞれ予定時刻に出発。各乗車地で参加者を乗せた大型バスは、一路おぢばを目指して走り、翌朝６時45分、第38母屋に無事到着した。

25日は、午前11時30分からの本部お願いづとめを参拝した後、午後２時から東廻廊において、廻廊拭きひのきしんを実施。55人の参加者は、よろづよ八首を奉唱しながら、ぢばへの伏せ込みに心地よい汗を流した。なかには教区青年会主催の「岩手っ子だヨ！全員集合」終了後に駆けつけた若者の姿もあった。

同日夜には、第38母屋食堂において、現地参加者も合流して懇親会が開かれた。鈴木眞彦教区長挨拶のあと、加藤前教区長による乾杯の発声があり、おぢばに集う喜びを感じながら歓談に入った。東日本大震災の折、被災地での慰問演奏に来て下さった「アンサンブルトゥモロー」の奏者有志が、アトラクションとして弦楽合奏を披露して下さった。心地よい贅沢な時間に感激した参加者は、心からの拍手を送った。弦楽合奏の余韻に浸りつつ、同じ地域に住まう教友の語らいに花が咲き、楽しい親睦のひとときを過ごした。

翌26日、６月の本部月次祭祭典後、岩手に繋がる帰参者が東礼拝場に集結。鈴木教区長を芯に、一同心を一つに揃えて、三年千日を共々に勇んで歩む決意を胸に、おつとめをつとめさせて頂いた。

午後６時からは、第38母屋２階広間において、深谷善太郎本部員（河原町大教会長）を講師に記念講演が開催された。深谷先生は、ユーモア溢れる語り口と豊富なおたすけ経験をもとにお話し下され、「人間、思い込みは日常茶飯事。気付いていない御守護がまだまだある。年祭活動はまず親神様の御守護を敏感に感じ、おたすけの機会を逃さないよう心掛けよう」「年祭活動は種まきの旬である。教祖にお喜び頂けるような喜びの種をしっかり蒔いて、それぞれの決心を実現出来るように歩んで頂きたい」と三年千日の通り方を示された。

27日早朝、おぢばを出発したバスは、仙台から東北道と三陸道の二手に分かれ各降車地を経由し、盛岡市の教務支庁、洋野町中野にそれぞれ到着し、団参は無事終了となった。

権谷正一教区布教部長は、「今回の団参によって帰参出来た方が大勢おられたこと、また、送り出して下さった方や声掛けに励んで下さった方のご尽力を思うと、この企画自体が年祭活動となったと確信した。今回得た勇みや喜びを、更に今後の活動につなげていきたい」と、成功裏に終わった「全教会おぢばがえり」を総括した。

２台の大型バス

ひのきしん説明（撮影：道友社）

勇んだ心で回廊ひのきしん（撮影：道友社）

懇親会

本部祭典後に揃っておつとめ（撮影：道友社）

深谷善太郎先生の記念講演